

モノづくり



モノは「人」がつくり、
感動と笑顔を届ける。



城陽が、変わる。

「こりこり」から、何をイメージしますか？ 固いものを削る様子や、力強く進む様子などを思い浮かべる方がほとんどではないでしょうか。

しかし、私たちは、「わがまち城陽」のことを、真っ先に思い浮かべます。

鉄道も高速道路もなかったその昔、京都と奈良の都を結ぶ奈良街道がありました。

京都から五里、奈良から五里と双方の真ん中に位置した交通の要衝の城陽は、悠久

のときを経て、近年、「五里五里の里」と呼ばれるようになりました。

耳を澄ませば聞こえてきませんか。今まさに城陽が大きく変わる

「こりこり」という音が。

新名神高速道路の開通で 城陽は大阪・神戸・奈良・名古屋 の結節点に

城陽市を含む京都府南部地域には、京都と滋賀を結ぶ「京滋バイパス」、京都と大阪を結ぶ「第二京阪道路」、京都と奈良を結ぶ「京奈和自動車道」の高速道路網が整備されています。さらに、平成29年4月には新名神高速道路「城陽〜八幡京田辺間」が開通しました。

また、令和5年度には新名神高速道路「大津〜城陽間」、「八幡京田辺〜高槻間」の開通及び城陽スマートIC（仮称）の供用が予定されており、新名神高速道路の全線開通に向けた事業が着々と進められています。

さらに、スマートIC隣接地においては、令和2年3月に、三菱地所・サイモン株式会社からプレミアム・アウトレット計画に係る開発基本計画が市へ届出されるなど、今後ますます市の活性化が見込まれます。

これからの城陽市は、これまでのベッドタウンから、新名神高速道路の全線開通等を契機として、「ヒト」や「モノ」、「情報」、「サービス」などが行きかう、交通結節点として日本のハブ都市となりうる可能性を秘めています。

そのような中、昨年12月には、農・商・工の全産業を網羅した産業支援サイト「JoinT」を立ち上げ、市内の魅力ある企業や農業の紹介等様々な市内情報の発信に取り組んでいます。

今号では、「JoinT」の仕組みや活用法などを紹介するとともに、これから変わっていく城陽を牽引していく元気な企業を知っていただくため、城陽市の発展を支える様々な企業の魅力をお伝えしていきます。



京都・城陽の企業を応援する情報誌
城陽カンパニー [令和2年春号]

ジョーカー

CONTENTS

- 2 城陽が、変わる。
- 4 城陽市産業支援サイト JoinT
- 8 (株)オージーファイン
- 9 香岳園製茶(株)
- 10 三和研磨工業(株)城陽工場
- 11 日本郵便輸送(株)京都営業所
- 12 日本観光ゴルフ(株)
- 13 丸江伸銅(株)
- 14 ムラグチ運送(株)
- 15 (株)ロゴスコオペレーション
- 16 市長挨拶・優遇制度

[発行] 城陽市まちづくり活性部 商工観光課
☎ 0774-56-4018
[編集] 城陽商工会議所
☎ 0774-52-6866
[制作協力] ココロ株式会社

京都府立大学と城陽市の協働プロジェクトで
今までにない総合的な産業情報発信の
ポータルサイトの運営が始まっています。



**農・商・工の全産業を網羅！
JoinTの運用を開始**

令和元年12月11日から城陽市のあらゆる産業の情報を全国に発信する「JoinT」の運用が始まりました。これは、市の農業・商業・工業などの全産業の魅力や強み、新商品やPRポイントなどの情報発信に加え、空き店舗情報、行政等の各種支援施策などを集約した、総合的な産業情報発信のポータルサイトです。

JoinTは、Joyo Industrial-support & promotion Tool の略で、人と人、企業と企業、商工業者や農業者などが繋がる (Joinする)、見て楽しい (Join) などの思いも込められた名称になっています。

「働きたい！」「体験したい！」「学びたい！」など、閲覧者の多様なニーズにお応えするため、「つくる・はたらく」「あそぶ・たいけん」「たべる・かう」「くらす・まなぶ」の4つのコンテンツで城陽市内の様々な情報を提供しています。

「つくる・はたらく」で起業や就労支援

「つくる・はたらく」では、城陽

で起業したい方向けの情報や、城陽で働きたい方向けの求人情報などを発信。農業者・商工業者の方々の6次産業化や農商工連携の取り組みも紹介しています。

「あそぶ・たいけん」で観光情報

「あそぶ・たいけん」では、城陽の観光情報等を発信。市内の年間を通じた観光イベントや、これまで発行した、「体験・体感京都JOYOマップ」、「京都城陽てんちゃ」等観光PRパンフレットなどの情報を掲載しています。

「たべる・かう」で飲食と物販

「たべる・かう」では、市内で買える物ができる場所などを紹介。城陽市と連携協力している、京都芸術デザイン専門学校が制作された市内農産物の直売所地図や、新商品情報などを掲載しています。

「くらす・まなぶ」で暮らしを支援

「くらす・まなぶ」では、各種産業支援に係るセミナー・講座等や、求人情報、空き家バンク制度、ふるさと納税に関する情報などを掲載しています。

**城陽市と大学の連携で誕生した
これまでにないポータルサイト**

本サイトは、京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に寄与する研究調査活動を推進することを目的とした、「京都府立大学 地域貢献型特別研究 (府大ACTR)」の採択を受け、城陽市と京都府立大学の協働で構築を行いました。

京都府立大学の青山名誉教授、岩崎准教授、同志社大学理工学部の新庄助教を中心に、京都地域未来創造センターの皆様、学生の皆様にご協力いただきました。

**インタビューを解析して
強調した読みやすい文章に**

JoinTでは、城陽市内の50社 (令和2年3月末現在) の企業情報を紹介していますが、青山名誉教授の監修のもと、府立大学の学生と市職員の混成チームが全ての企業を取材で訪れてインタビューを行いました。このときのヒアリングデータは大学で解析され、強調すべきキーワードを数学的に割り出して、紹介記事に活用。また、文章の様式や文調を統一させることで、読みやすい

文章でまとめられています。
次に読むページをお勧めして、
閲覧者も企業も有益になる

企業紹介ページの最後には、「類似性の高い企業」を提示しています。この同業種・異業種間リンクは、同じサイト内で次に読むべきページをお勧めする機能です。サイトの閲覧者に「こんな企業もあるんだ！」「この企業はどんな企業だろうか？」と、城陽市の様々な企業に興味を持ってもらい、さらなるサイト内検索や、企業の交流・連携を促進しています。

具体的な活用例は、左上図をご覧ください。JoinTの企業検索項目で「イチジク」を検索すると、市内のイチジク農家の紹介ページが表示され、情報収集できます。ページの最後までスクロールすると「他の企業 & 事業所もチェック」として、お勧め同業種の「採卵養鶏場」の紹介ページにジャンプできます。さらに「茶問屋」そして「生地のプリンメーカー」という具合に次々と紹介ページが繋がります。

これらの情報を閲覧するなかで、「イチジクと卵のスイーツを作って、お茶をセットにしたギフト商品がでないだろうか。これを風呂敷で包んで販売するの面白いかも」などといったアイデアが自然に生まれ、ゆくゆくは、企業間コラボレーションへと発展することが期待されます。



QRコードからアクセスできます。

1 JoinTで「イチジク」を検索



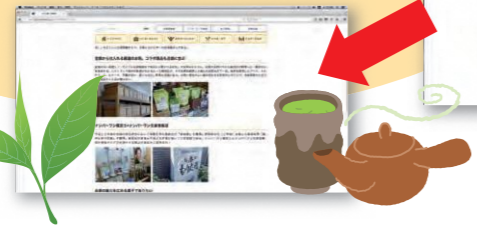
2 市内の「イチジク農家」の情報を表示



3 同業種で類似性の高い「採卵養鶏場」の情報を表示



4 同業種で類似性の高い「茶問屋」の情報を表示



5 異業種で類似性の高い「生地プリントメーカー」などの情報を表示



データサイエンスで城陽の企業情報を閲覧者にお勧めする 府立大学×城陽市の JoInT プロジェクト

2020年に生成されるデジタルデータは2013年の10倍と予想され、1人あたり年間6TB強を生成し、地デジ放送750時間分に相当。これほどデジタルデータが増大した理由の1つは「サマリー (要約) サイト」の存在です。

ホームページ (HP) で集客に成功は一昔前の話。今ではHPが増加したため、閲覧者をどのように確保するかが大切です。そこで注目すべきなのが同じカテゴリーの情報を集めて要約したサマリーサイト。生産と小売繋ぐ卸売業のように、企業と閲覧者をうまくマッチングさせます。おしゃれなカフェを探したいときは「食ベログ」などが重宝されます。観光サイトのおかげで、旅行の計画がスムーズに行えるはず。この類の推薦システムの活用で目をひくのは、「Amazon」です。閲覧者が選択した商品に加え、類似商品や関連商品もお勧めしてくれます。この推薦システムのおかげで、サイト内に閲覧者を留めることに成功しています。また「Epidemic

Sound (エピデミック・サウンド)」も優秀な推薦システムを備える音楽配信サイトとして知られ、YouTuberたちのハイセンスな動画制作を強力にサポートしています。

城陽の産業を要約するサマリーサイトとして構築された「JoinT (ジョイント)」は、大学と市役所の混成チームで企業のヒアリング調査を行い、データ解析で割り出したキーワードを散りばめた紹介文を作成しています。さらに様式や文調を統一し、読みやすい文章にしています。

JoinTはもちろん、閲覧者に対して次に読むべきページをお勧めする推薦システムを備えています。異業種間リンクの構築にはデータサイエンスの解析手法が生かされています。ヒアリング結果を数値化することで企業ごとの特徴を高次のベクトルで表し、ベクトルの距離が近い企業間をリンクしています。これは仮想的な高次元空間で考えることで、実空間 (縦×横×

京都府立大学
名誉教授
青山 公三



高さの3次元+時間) では表面化しない繋がりを発見した結果といえます。

今後も協働でJoinTプロジェクトを継続させ、掲載企業を増やしなが、新着情報やイベント情報、求人情報などのページも充実させる予定です。現状では、企業を点で、企業間リンクを矢印で表すと、点に集まる矢印数に差異が見られます。他社からのリンク数が企業ごとに異なり、掲載企業が増えるにつれて、このばらつきは無視できなくなります。最適な矢印の配置を見出すための手法など、できるだけ多くの点が辿れるように、データサイエンスの最新技術投入し、より多くの企業情報を閲覧者にお伝えできるよう改善を進めていきたいと考えています。



京都城陽カンパニーネットワーク会議の様子



(左から) 青山名誉教授、岩崎准教授、新庄助教

京都城陽カンパニーネットワーク会議を開催 JOINTの仕組みや活用方法を 制作した大学教授らが講演され、 今後の利活用に期待の声も上がる

城陽市産業支援サイト「JOINT」の運用開始の前日である、令和元年12月10日、文化パルク城陽大会議室において、京都城陽カンパニーネットワーク会議を開催しました。50名以上の会員企業、関係者が出席するなか、JOINTについて、構築の経緯から運用内容、今後の展開について、詳細な説明が行われました。

基調講演では、京都府立大学の青山名誉教授から、本プロジェクトの経緯と、京都府立大学地域貢献型特別研究の概要や地域貢献について、お話しいただきました。

また、京都府立大学の岩崎准教授からは、産業支援サイト「JOINT」のコンセプトと今後の展望について、同志社大学理工学部の新庄助教には、データ分析に基づく企業間リンクについて、講演していただきました。

な現状の中で、どのような情報をどのような閲覧者に届けるかを意識するなど、具体的な話を聞くことができました。

JOINTが単なるポータルサイトではなく、城陽市と大学の連携で、企業を分析した結果に基づいて構築され、閲覧者が飽きずに様々な情報を得られる仕組みがあることに、感心した様子の出席者もおられました。

また、JOINTで同業種や異業種で類似性の近い企業を紹介され、「同じ城陽市で操業する企業同士で様々な交流の切っ掛けにしたい」と話す方もおられ、新たな取り組みに期待も高まっているようです。

京都城陽カンパニーネットワーク事業では、新名神高速道路の全線開通を目前に、今後の急激な変化や大きな波を生かして市内産業の発展につなげるため、今回のJOINTのように、城陽市の企業支援を継続して行います。

企業のヒアリングデータの分析から得られた特徴をもとに紹介ページを構成し、企業同士をリンクする「推薦システム」を導入

JOINTでは、単に情報を並べるのではなく、何らかの意味づけをして、サイトを構築しています。まず、様々な企業を訪問してヒアリングしたことで、城陽市には多種多様な企業が集まっていることがわかりました。これをそのままWebサイトで紹介すると、閲覧者は「ごちゃごちゃしている」と感じてしまう。そこで産業支援サイトを主観的にまとめるのではなく、数学の力を借りようというのがコンセプトです。

今回は「紹介する企業がどういう風に似ているか」「城陽市って何なのか」について分析しました。

まず、類似度解析を行いました。これで、企業と企業の近いところがわかります。例えばA～Fの「身長」と「体重」で比較することで「近さ」を表すことができ、クラスター（集団）に分けられます [図1]。

ただ、これだけでは直感的なものとは変わ

らないので、A・B・Cの情報を特徴ベクトルで捉えることで、矢印の角度で近さ（類似度）を測ることができます [図2]。

さらに、企業の特徴的な情報を抽出するために「潜在的意味インデキシング」を行いました。これはデータ上に表れていない情報で、正しく理解する上で本来はあるべき情報を探すことです。例えば文章①～④の中で、ドライブ、オートモビル、カー、プレイ、ミュージックの単語の出現回数を調べたときに、文章①にオートモビルはあって、文章②にカーがあるとなります。このままだと文章①と②は別になりますが、オートモビルとカーに区別がないほうが、情報を正しく分けることができる。検索で表面上が「0」のところを「1」にするのが、潜在的意味インデキシングです [図3]。

私たちが企業を訪れてヒアリングした

同志社大学
理工学部助教
新庄 雅斗



データを、これらの方法で解析することで、その企業を示す特徴を得られます。サイトの閲覧者が、この特徴を自然に思い描けるような構成で、企業の紹介ページの文章を作成しています。

以上のように数学を活用して、企業間の類似度をクラスターで分割した上で、矢印で企業間のリンクを張り、城陽市に立地する企業はどのようなものかを潜在的意味インデキシングにより、その企業の特徴づけるものを明らかにすることで、紹介ページを構成しています。

閲覧者の世代によって、情報の受け取り方が異なっていて、製品やサービスの「物語」や「流れ」に惹き付けられる

企業にとってWebサイトは欠かせない存在ですが、自分たちが伝えたいことを発信するのではなく、有益な情報を精査してお客様目線で発信するべきです。また、Webサイトで情報を閲覧する世代によって、情報との関わり方に大きな違いがあることを理解するべきです。

団塊の世代以前の「世代①」は、厳しい時代を生きてきて、自由に対する憧れがあり、断片的な情報をカスタマイズすることに抵抗はありませんが、そもそも情報機器を思い通りに使えない方も多い。

団塊の世代から第2次ベビーブーム世代の「世代②」は、自由を許されて、人に指図されるのが嫌。断片的な情報を自分で集めて自由にカスタマイズすることを好みます。

第2次ベビーブーム世代以降の「世代③」である現在の若者は、自由を許されているのに、周囲と異なるものはあまり好まず、ハウツウが明確で「失敗がないように手っ取り早く正解がほしい」と思う人が

多いようです。

現在のWebサイトの制作は「世代②」が中心に構築しているのですが、これから社会の中心になっていく「世代③」には、馴染まない可能性が大きくなると思います。

若い世代は、余計なものは時間が取られるだけで見ないし、深く考えなくても簡単に分かるように、具体的な絵を描いてあげないといけない。例えば、「Aガラス：対荷重3トン」と記すのではなく、「Aガラスの上をランドクルーザーが走行しても割れません」というように、製品に対する物語や流れを示すことで、閲覧者は惹き付けられるのです。

JOINTも「世代③」に対応して、閲覧者の単純な行動パターンとマッチするように「つくる・はたらく」「あそぶ・たいけん」「たべる・かう」「くらす・まなぶ」の項目に分けて、構成しています。

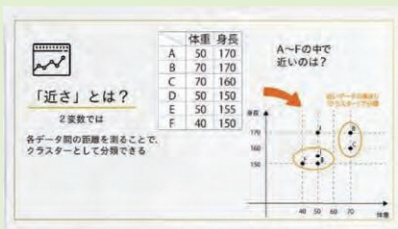
企業の紹介ページは、第三者である学生たちが取材し、「城陽の企業は希少性が

京都府立大学
准教授
岩崎 雅史

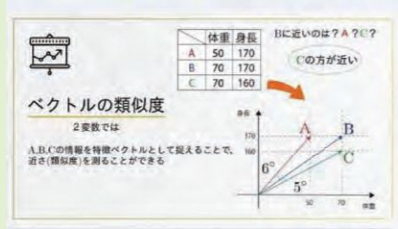


最大の特長」を加味した文章でまとめています。さらに「推薦システム」を組み込んでいるので、閲覧者が飽きずに複数の企業ページを閲覧できます。

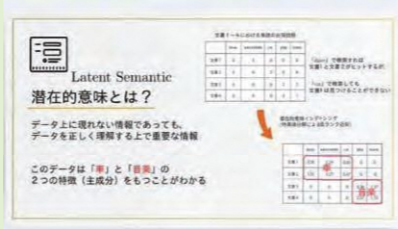
今後のJOINTは、企業紹介ページを増やしながら、頻りに推薦される企業とそうでない企業の差をグラフ理論を用いて最少化できるように努めていきます。データの特徴を抽出するのに標準的なアルゴリズムではなく、私たちが開発した世界最高精度を誇るI-SVDに置き換えるなどの改善も進めていきます。また、新着情報のページを設け、他の市町村との情報共有の模索、ページのレイアウトやデザインの検討など、新たな取り組みも行っていきたくと考えています。



[図1]



[図2]



[図3]



①③荒茶の茎や葉脈を自動で取り除く仕立ての自動化ライン ②石臼で挽いて最高級品質の宇治抹茶ができる ④石臼で挽いた抹茶に異物や金属が混入していないか確かめるために必ず金属探知機を通して ⑤石臼は上下の石で擦りつぶし、細かく彫られた溝を通して出てくる

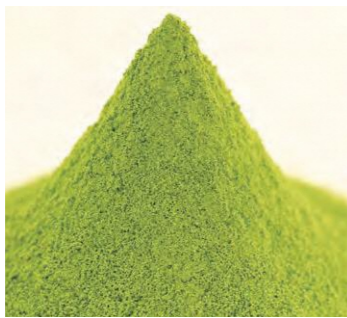
工場内の設備は、新しく導入したばかりで、荒茶の茎や葉脈を取り除く「仕立て」は、平成29年3月に自動化ラインが完成。徹底した衛生管理の下で、石臼にかけられる前段階の処理が行われている。

仕立て、石臼の最新設備を導入

茶農家から仕入れたり、入札販売会で落札した荒茶は、自社所有の冷蔵庫で保存する。脱酸素の容器に入れて、マイナス4℃の状態約700トまで保冷管理でき、注文に合わせて抹茶に加工・製造する。



香岳園製茶株式会社
[創業] 明治初期
[従業員数] 25名
[資本金] 2,000万円
[事業内容] 宇治抹茶、宇治茶(玉露・煎茶等)の製造販売
[住所] 城陽市富野堀口27番地
TEL 0774-52-0007



石臼で挽いた香岳園製茶の宇治抹茶



場内は徹底した衛生管理が行き届いている

碾茶を数多く扱える、設備の充実

J A 全農京都茶市場において、碾茶取引高では香岳園製茶が常に上位に位置し、平成22年には年間170トもの碾茶を取り扱った。一時の抹茶ブームは落ち着き、多少の変動は見られるものの、現在も変わらずぬ量の宇治抹茶の製造を行っているそうだ。

**仕立てや石臼などの最新の設備を導入した老舗製茶会社
最高級の宇治抹茶から製菓会社や商社まで、
要望に応じて高品質の宇治抹茶をつくる**

北村磯次郎氏が、明治初期の1870年頃に、城陽市富野で創業した製茶会社。昭和25年に法人化し、宇治抹茶、宇治茶一筋で150年近くの歴史を誇り、現在は5代目社長の北村敏朗氏と専務の北村雄介氏が中心に、抹茶づくりを行っている。

「私たちは裏方で社名は出ませんが、すべて自社にて一貫製造して、美味しい宇治抹茶、宇治茶をお届けするために、努力を惜しみません」と語る北村専務。改善すべきことや、目標とすることも数多くあるそうで、石臼のように時間をかけて、じっくり取り組んでいきたいとか。宇治抹茶、宇治茶のさらなる広がりに、期待が高まる。

裏方に徹して、美味しさを追求

150台以上の石臼が並ぶ工場も、平成30年11月に完成したばかり。石臼で丁寧に挽いた抹茶は、角の取れた形をしているようで、それが旨味や甘みを生み出しているとか。台数が多いため、一日に最大で100ト以上の抹茶を作ることができ、お客様の様々な要望に応えるために、設備を充実させている。



①確かな技術を身につけた若手社員は頼もしい存在だ ②③重量のある大型部品から超精密部品まで次々と仕上がっていく ④3D-CADソフトで製品の形状を確認する ⑤新社屋の事務所もきれいで働きやすい環境に ⑥できあがった鏡のような光沢の金型 ⑦シャープペンの芯よりも細かな加工がされた医療分野の部品

**加工難易度の高い、一点モノの金属加工を手掛ける
装置開発パートナーとして全幅の信頼を受け、
日本のものづくりを支える金属加工会社**

電機メーカーで技術者を務めていた小川幾男氏が、定年退職した昭和44年に宇治市の自宅敷地で金属加工を始め。幾男氏の腕が良かったため、依頼が相次ぎ、当時大学生だった現社長の俊保氏と、現専務の清保氏が、父を手伝うようになり、昭和46年、親子3人で有限会社小川製作所がスタートした。

自動車メーカーの製造ラインの一部など、大手の仕事も受注し、多忙な日々を送っていたが、納期や品質の厳しい要求に応えるため業務が連日深夜に及び、社員が疲弊していた。メーカーの製造現場の海外移転で発注が止まったのを機にこの分野から撤退し、以降も景気で発注の増減が激しい業界は避け社員が安心して働ける環境を目指すために、俊保社長は大きく舵を切った。

俊保社長と清保専務は、機械を扱うのが初めてだったが、幾男氏の指導の下、情熱と創意工夫で取り組んだ。昭和51年、城陽市に工場を建設し、多様な要望に応えるため、コンピュータ制御のNC工作機械、合金鋼加工の研削盤、放電加工機などを導入。この頃、取引先の装置メーカーから外注製作提携の依頼があり、俊保氏は取引工場に通いつめて、ベテラン技術者の技を吸収していった。これを機に、製造に必要な特殊工具の製作や溶接工程の内製など、多品種少量部品の一貫生産体制を清保氏と共に作り上げた。

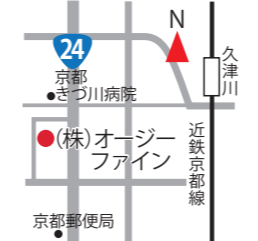
自動車の製造ラインの一部など、大手の仕事も受注し、多忙な日々を送っていたが、納期や品質の厳しい要求に応えるため業務が連日深夜に及び、社員が疲弊していた。メーカーの製造現場の海外移転で発注が止まったのを機にこの分野から撤退し、以降も景気で発注の増減が激しい業界は避け社員が安心して働ける環境を目指すために、俊保社長は大きく舵を切った。

装置開発のパートナーとして

オージーファインは技術力を見込まれ、テレビやラジカセのプラスチック外装を製造するインモールドの金型、



株式会社オージーファイン
[創業] 昭和44年9月
[従業員数] 14名
[資本金] 1,050万円
[事業内容] 精密金属加工(精密工作部品、金型、組立品の製造)
[住所] 城陽市平川広田89-1
TEL 0774-53-8718



左から小川保弘常務、小川俊保社長、小川清保専務。社長と専務の経験やノウハウを継承するために、両人も現場で製造業務に携わりつつ後進を指導する。小川常務は、自らも学びつつ今後の体制づくりに務めている

「技術はデータ化できても、最後に必ず人間の手が入ります。その感覚を伝えるのは、人から人。日本の産業を支える、ものづくりに対する思いを継承していきたいと思っています」と社長と専務は笑顔で口を揃えた。



①②国道24号バイパスを挟み、京都郵便局と向かい合う日本郵便輸送株式会社 京都営業所。新名神高速道路城陽インターに近く、日本郵政の輸送を担っている
③車止を左タイヤに設置することで左側の安全確認を行う ④ドライバーの健康と安全運転のための運行前点呼 ⑤運行前にトラックの点検は欠かさず行っている

安全、確実、迅速のための取り組み
台風や大雪など天候による影響だけでなく、京都は観光やイベントによる渋滞も計算に入れて運転しなければなりません。また京都市内の路地に面した

日本郵便輸送株式会社は、日本郵政グループの主要な会社のひとつ。一都一府二府三十六県に事業所があり、約2600両以上のトラックで、昼夜を問わずに郵便物を配送する。1日の総走行距離はおよそ33万キロ、地球8・25周分になり、郵便の大動脈ともいえるネットワークを構築している。

京都・滋賀の郵便局に配送する
日本郵便輸送 京都営業所は、京都郵便局を国道24号で挟んだ東向いに位置する。全国から京都府、滋賀県に宛てたハガキ、封書、ゆうパックなどの荷物は、すべて京都郵便局に集まる。ここで仕分けされた郵便物を各所の郵便局まで運ばなければならない。

京都営業所には67人が勤務し、そのうちドライバーが53名を占める（令和2年3月末現在）。郵便物の入ったローカルレットをトラックに積み込み、決められたルートで郵便局を回り、郵便物を配送する。そして荷台が空になると、再び決められたルートの郵便局を回って、郵便物を回収して、京都郵便局へと運び込む。

日本郵便輸送株式会社
[創業]平成19年11月30日
[従業員数]2,011名
[資本金]182億5,000万円
[事業内容]
郵便物及び郵便事業に関連する物品の運送事業、一般貨物自動車運送事業特別種目合わせ貨物運送を含む、貨物利用運送事業、倉庫業、石油販売業ほか

ダブル連結トラックの試み
平成28年から国土交通省がヤマト運輸、日本通運、西濃運輸、日本郵便輸送の10社の大型トラック2台を連結して、関東〜関西を共同輸送する「ダブル連結トラック」の実証実験を行い、平成31年4月から本格運用を開始。国

[本社] 東京都港区西新橋一丁目16番2号
[京都営業所]
城陽市寺田塚本215
TEL 0774-54-5860



国道24号バイパスを挟んで京都郵便局と向き合う日本郵便輸送京都営業所

郵便局への配送は、運転に気をつけるだけでなく、利用できる駐車場も狭く、お客様の利用が優先なので、ドライバーは細心の注意でハンドルを握る。4時間の連続運転ごとに30分間の休憩が義務づけられていて、安全運転のために、ドライバーに負担がかからないよう、規則も徹底している。

営業所単位でドライバーの安全運転の教育を年2回実施し、全社では安全運転向上を目的に、運転技能や知識を競うコンテストも開催する。入社後に会社の支援で大型車運転免許を取得できる制度もあり、トラックのパワーゲートで荷物の積み降ろしが楽に行えることもあって、女性ドライバーも増えているそう。

「まごころを運ぶ」をモットーに「輸送品質ナンバーワン」を目指し、社員一人ひとりの生き生きとした行動力でお客様に心から満足していただく。そんな日本郵便輸送の全社を上げた取り組みに、期待も高まっている。

交省はドライバーの運転時間を約5割CO2排出量を年間約4割、削減できると発表した。



①城陽工場生産品 石材研削ダイヤモンド工具 ②③お客様の使用条件に近い環境での商品開発を進めるため各種加工機械を設備している
④ベアリング軸受軌道研磨用途の超仕上げ砥石 ⑤城陽工場生産品 真空蒸着材料 ⑥城陽工場全景

2代目の社長に就任した竹ノ内和夫氏は、これら多くの製品を広めるため、全国を回り、独自の金属加工、石材加工製品販売ネットワークを確立させた。昭和46年、金属系ダイヤモンド砥石専用工場を城陽市に設立。昭和52年、

D砥石の平面研磨で石材業界に革命
昭和37年、同社は石材加工の鏡面砥石を開発し、それまで天然産の砥石を使って手作業で磨き上げていた仕事を平面研磨機にて光沢を出す作業を実現普遍化させた。またその後も工業用人造ダイヤモンドを樹脂で成形した中仕上げ砥石、最終鏡面仕上げの特殊パフを開発し、生産性合理化を一気に進めたのである。

実直に研磨一筋が継続の理由
研磨する製品や機械によって、砥石の形状や性能は異なるため、すべての製品がオーダーメイドに近い、お客様の思いに込める研究開発の結果、石材業界では、平成2年に石材曲面加工を効率よく作業できる「ダイヤモンドセラムカ」の開発に成功。ヒット商品として多くの支持を得た。

このころから海外展開を視野に入れ、現・社長の竹ノ内壯太郎氏は海外での営業活動を積極的に進める。平成4年、ドイツに関連子会社を設立。現在は、アメリカ・イタリア・インドにも関連会社の販売拠点があり世界中の石材研磨加工に三和研磨工業の製品が使われるようになった。

粉体焼結技術で新たな展開を
砥粒や工業用ダイヤモンドの研削材を金属や樹脂で焼結することで砥石ができる。この粉体焼結技術を生かし、

三和研磨工業株式会社
[創業] 昭和24年10月
[従業員数] 127名
[資本金] 7,500万円
[事業内容]
ダイヤモンド砥石・ダイヤモンド工具、合成樹脂系微粒子研磨製品、セラミック系微粒子砥石、特殊パフ製品、研磨装置、蒸着機能材料の製造販売

三和研磨工業株式会社
[創業] 昭和24年10月
[従業員数] 127名
[資本金] 7,500万円
[事業内容]
ダイヤモンド砥石・ダイヤモンド工具、合成樹脂系微粒子研磨製品、セラミック系微粒子砥石、特殊パフ製品、研磨装置、蒸着機能材料の製造販売

このころから海外展開を視野に入れ、現・社長の竹ノ内壯太郎氏は海外での営業活動を積極的に進める。平成4年、ドイツに関連子会社を設立。現在は、アメリカ・イタリア・インドにも関連会社の販売拠点があり世界中の石材研磨加工に三和研磨工業の製品が使われるようになった。

研磨する製品や機械によって、砥石の形状や性能は異なるため、すべての製品がオーダーメイドに近い、お客様の思いに込める研究開発の結果、石材業界では、平成2年に石材曲面加工を効率よく作業できる「ダイヤモンドセラムカ」の開発に成功。ヒット商品として多くの支持を得た。

「磨く分野に必要な製品とサービスを提供することを使命として、ニッチなマーケットに密着し、当社の技術を活かした独自性の高い商品で世界中のお客様に貢献してまいります」と竹ノ内壯太郎社長。

三和研磨工業株式会社
[創業] 昭和24年10月
[従業員数] 127名
[資本金] 7,500万円
[事業内容]
ダイヤモンド砥石・ダイヤモンド工具、合成樹脂系微粒子研磨製品、セラミック系微粒子砥石、特殊パフ製品、研磨装置、蒸着機能材料の製造販売

三和研磨工業株式会社
[創業] 昭和24年10月
[従業員数] 127名
[資本金] 7,500万円
[事業内容]
ダイヤモンド砥石・ダイヤモンド工具、合成樹脂系微粒子研磨製品、セラミック系微粒子砥石、特殊パフ製品、研磨装置、蒸着機能材料の製造販売

三和研磨工業株式会社
[創業] 昭和24年10月
[従業員数] 127名
[資本金] 7,500万円
[事業内容]
ダイヤモンド砥石・ダイヤモンド工具、合成樹脂系微粒子研磨製品、セラミック系微粒子砥石、特殊パフ製品、研磨装置、蒸着機能材料の製造販売

3代目を務める竹ノ内壯太郎社長
「磨く分野に必要な製品とサービスを提供することを使命として、ニッチなマーケットに密着し、当社の技術を活かした独自性の高い商品で世界中のお客様に貢献してまいります」と竹ノ内壯太郎社長。

研磨で輝く未来と、世界マーケットでの活躍に、ますます期待が高まっています。



①亜鉛、スズ、インコットの原料にはリサイクルされたものも使う ②炉に原料を入れる作業 ③炉で溶かした原料を鋳造炉に入れる ④連続鋳造で良質な鋳造棒を生産する
⑤鋳造棒を歪みがなくなるように矯正加工を行う ⑥⑦高精度の品質チェックを行い、職人の目でさらに厳しく検査を行う ⑧出荷を待つ、完成した製品

幕末の京都で、岡田庄兵衛が黄銅を造り始めたこと由来し、岡田伸銅から分家した岡田岩次郎が、昭和19年に京都市南区の京都駅近くで、丸江伸銅株式会社を設立した。

昭和39年、東海道新幹線が開通し、煙や臭いで迷惑をかけたくないと、2代目の岡田武夫社長が移転を計画。緑あつて城陽市長池に本社工場が完成し、昭和43年から本格的な操業を開始した。昔ながらの造り方が主流だった。

この改善を命じられたのが、入社したばかりの現在の岡田保雄社長。社内には、当時の日本に2台しかなかったスイス製の最新鋳造機があり、これを活用した製造プラントを企画する。

原料を溶かす溶解炉と鋳造炉を直結して、棒、管、六角など、様々な形状の青銅棒を希望の長さで製造できる「横型連続鋳造」の開発に成功。これは業界初の出来事だった。

時代は、自動化による24時間稼働の大量生産、NC加工機のサイズや形状を合わせることができるよう丸江伸銅の青

業界初の横型連続鋳造を開発

黄銅は、銅と亜鉛の合金で、真鍮とも呼ばれ、導電性に優れ、耐食性も高く、様々な家電製品に利用されている。容易に造れた黄銅に対して、銅、錫、亜鉛、鉛の合金の「青銅」は、糊と粘土で作った鋳型に流して固めるという昔ながらの造り方が主流だった。

この改善を命じられたのが、入社したばかりの現在の岡田保雄社長。社内には、当時の日本に2台しかなかったスイス製の最新鋳造機があり、これを活用した製造プラントを企画する。

原料を溶かす溶解炉と鋳造炉を直結して、棒、管、六角など、様々な形状の青銅棒を希望の長さで製造できる「横型連続鋳造」の開発に成功。これは業界初の出来事だった。

柔軟な心と謙虚な姿勢で「一以之貫」(一をもってこれ貫く) 青銅棒の製造に特化し、小ロット多品種など 細かな要望に応える老舗の伸銅メーカー

幕末の京都で、岡田庄兵衛が黄銅を造り始めたこと由来し、岡田伸銅から分家した岡田岩次郎が、昭和19年に京都市南区の京都駅近くで、丸江伸銅株式会社を設立した。

昭和39年、東海道新幹線が開通し、煙や臭いで迷惑をかけたくないと、2代目の岡田武夫社長が移転を計画。緑あつて城陽市長池に本社工場が完成し、昭和43年から本格的な操業を開始した。昔ながらの造り方が主流だった。

この改善を命じられたのが、入社したばかりの現在の岡田保雄社長。社内には、当時の日本に2台しかなかったスイス製の最新鋳造機があり、これを活用した製造プラントを企画する。

原料を溶かす溶解炉と鋳造炉を直結して、棒、管、六角など、様々な形状の青銅棒を希望の長さで製造できる「横型連続鋳造」の開発に成功。これは業界初の出来事だった。

選択と集中で、青銅棒製造に特化

銅棒に、全国から注文が殺到した。当時の設備では生産能力や単価に合わせる必要があった。構造不況に陥り、岡田武夫社長が下した決断は、黄銅の製造部門を譲渡し、青銅棒と黄銅中空鋳物棒の製造に集中することだった。

この決断は、吉と出た。公差100分の1の高品質品を小ロット多品種で提供してくれると、継続して安定した注文が入った。また新しい合金を試すサンプル製造を行ったり、簡単な一次加工ができる設備を導入したり、お客様のニーズに合わせた対応を心掛けた。

若者に託し、自らも努力を続ける

経営は安定し、工場の増築、新事務所、高周波炉への入れ替えなど将来への設備投資も順調に行って、平成27年に昭和56年に売却した5000坪の土地を買い戻すことができた。

琵琶湖疏水で発電し、チンチン電車



丸江伸銅株式会社
[創業] 昭和19年8月
[従業員数] 25名
[資本金] 5,000万円
[事業内容] 青銅棒・黄銅中空鋳物棒の製造および加工、販売
[本社] 城陽市長池五社ヶ谷20番地 TEL 0774-52-3309



保雄社長が開発した鋳造機は、新型導入時に花壇に再利用されて、工場の敷地内にその姿を残している



工場を案内してくれた岡田和也取締役製造部長

の電線から電気を引けたから伸銅会社は黄銅を製造できた。日本の産業革命は京都から始まったと思います(笑)。暮らしを便利で豊かにするために、企業ができることはまだまだたくさんある。若者に未来を託しつつ、世の中にお役に立てるように、私たちも努力を続けます」と笑顔の岡田社長は語った。



①庭園を眺めて入浴できる男性浴場 ②落ち着いた雰囲気のコピーラウンジ ③空撮による西コース全景 ④駐車場から見たクラブハウス ⑤東コース11番ホール。グリーンまでストレートで少し上りのパー4 ⑥西コース2番ホール。打ち下ろしてストレートなパー4

男子・女子プロの大会が開催される名門コース 関西の経済人が開いた城陽カントリー倶楽部 開場60年を数え、交流もますます盛んに

昭和32年、霞ヶ関カントリー倶楽部で日本初の国際ゴルフ試合が開催され、全国でゴルフブームが起こった。

「京都にもゴルフ場を」と平田義太郎氏(芝川商店社長)が中心に準備を進め、ゴルフ場経営に造詣の深い寺田甚吉氏(南海電鉄元社長)が参画。株主制でメンバーを募る方針が立てられ、松下幸之助氏をはじめ、関西経済界の錚々たるメンバーが発起人になり、昭和33年9月11日、日本観光ゴルフ株式会社が発立された。

関西経済人の社交場として誕生

コース設計を佐藤儀一氏、クラブハウス設計を渡辺節氏に依頼し、工事が始まると寺田氏は城陽市に転居してきて、毎日現場で陣頭指揮をとり、佐藤氏や従業員と一緒に作業したそうだ。そして昭和34年7月23日、高松宮殿下ご夫妻のテープカットで城陽カントリー倶楽部がオープン。寺田氏は、初代キャプテン、そして初代社長として活躍された。

城陽カントリー倶楽部は、関西経済界の社交場として、また全国のゴルフファン憧れの名門ゴルフコースとして、その歴史を重ねていった。

名門としての権威と魅力を継いで

開場40周年の平成11年には西コースに電磁誘導乗用カート導入、ロッカー



日本観光ゴルフ株式会社
[創業] 昭和33年9月
[従業員数] 139名
[資本金] 1億円
[事業内容] 城陽カントリー倶楽部の運営
[本社] 城陽市寺田奥山1-46 TEL 0774-52-2525

城陽と共に歩み、未来に期待

城陽カントリー倶楽部は、地域との交流に積極的に取り組み、親子または祖父母と孫のペアが女子プロ選手と一緒にプレーする「LPGAサマーキットデー in 京都」や、城陽市スポーツ協会の親睦ゴルフ大会などを定期的に開催し、メンバー以外でもプレーできる



初代キャプテンの寺田甚吉氏



2009年に開催されたアジアパシフィックオープンゴルフチャンピオンシップの様子

機会を設けている。「城陽インターができて、アクセスがとても良くなったとメンバーも喜ばれています。新名神が全線開通すれば名古屋と神戸の距離も近くなり、様々な交流が活発になることに期待しています」と佐藤支配人。令和2年9月、2020 パナソニックオープンゴルフチャンピオンシップが開催が決定し、城陽カントリー倶楽部から更なる活気と賑わいが生まれそう。



①②アイリスイン城陽の室内にテントやタープが設置され、イスやテーブル、調度品のすべてがロゴス製。テラスではバーベキューもできる ③ロゴスのアウトドアギア・グッズが買えるロゴスショップ ④ロゴスカフェは軽食やコーヒーが人気 ⑤イタリアンベースの料理が楽しめるロゴスファミリーレストラン（プラムイン城陽内）。日帰りの公園利用者にも好評



①食料品の配送は夜間が多く、交代制で24時間年中無休で配送するそうで、まさに日本の物流を支えている ②運行前に飲酒チェック、健康状態の問診が行われる ③あらゆる商品運送に対応する様々な機能を搭載したトラックたち ④食品を扱うため配送後には清掃を行う ⑤⑥⑦運行前には車両の点検も欠かさず実施する

**アウトドアブランド・ロゴスの新たな拠点
鴻ノ巣山運動公園にロゴスランドが誕生。**
城陽市と企業のコラボが新しい風に

昭和3年、大阪市港区に柴田実昭氏が創業した船舶用品問屋(株)ロゴスコーポレーションの始まり。合成繊維に塩ビコーティングした作業合羽を開発する一方で、アメリカから小型ヨットを輸入し、ビーチパラソルやゴムボートを企画製造するなど、昭和45年からマリッジジャーにも積極的に参入。昭和58年にキャンプ用品の販売を開始し、昭和60年からロゴスブランドでの本格的な展開をスタートさせた。

家族や初心者がアウトドアを楽しむ
ロゴスは「5m×800m理論」を設けている。これは海辺5mから標高800mの範囲で楽しめるアウトドアを対象にした製品づくりを行うというもの。当時のアウトドアギアは、本格的な登山や野外生活に対応するため、高価なものばかりだった。しかし、ロゴスでは、家族や初心者がアウトドアを楽しむために、使いたくなくて便利で手頃な価格の製品づくりを行った。

また海外製テントは大きすぎて重かったため、軽くてコンパクトに収納できるものを開発。テントの前にタープを張って、食事スペースにするスタイルを提案。これが支持され、日本のキャンプスタイルの定番を生み出した。

ロゴスを直接感じるロゴスランド
平成4年から直営店LOGOSシヨ

お客様のあらゆるニーズに応える運送サービス
食品輸送をメインに地場配送だけでなく、関東や九州への長距離もお任せの運送集団

ムラグチ運送株式会社代表取締役の村口俊氏は、ホテルの料理人だった。自分の腕を試したくて、独立して始めた居酒屋は、常連さんで賑わう繁盛店になった。しかし、個人で出来ることに限界があること気づき、店を畳むと自らハンドルを握り、軽トラック一台で運送業を始めた。

軽トラ一台、一人で始めた運送業
大手運送会社から仕事を任されて、市場からスーパーへ野菜を運んだり、レストランチェーン店に食材を届けたら、扱うものは食料品が中心だった。村口社長の真面目で丁寧な仕事ぶりが評価され、もっと仕事を任せたいからと勧められて、大型トラックを購入。そして平成2年にムラグチ運送有限公司を設立。平成8年には株式会社に変更した。

村口社長を慕って一緒に仕事をしたという仲間が増え始める。運転手不足でやる気になれば稼げた時代に、自分のもので力を貸してくれることが嬉しくて、給料日には仕事の労をねぎらうために、食事会や飲み会を催すのが恒例だった。

景気に左右されない食品運送で邁進
食料品を運ぶ仕事は、景気の影響を受けにくく、常に一定の仕事があった。リーマンショックのときも忙しかった

株式会社ロゴスコーポレーション
[創業] 昭和3年
[事業内容] アウトドア用品・ウェアなどの企画・販売・製造及び付随業務
[本社] 大阪市住之江区平林南2丁目11番1号
[ロゴスランド] 城陽市寺田大川原24-4
TEL 0774-58-0010



ロゴスと城陽が新たな取組に挑戦
ロゴスにとって全てが初めての経験だったが、プラムイン城陽を全面改装し、部屋の中にテントを張り、就寝は寝袋、調度品はすべてアウトドアギア、テレビは外し、室内にキャンプサイトが再現された。これが好評で、週末や連休は予約が埋まるほど人気に。さらにアイリスイン城陽は、部屋の前の庭でバーベキューができるなど、屋内と屋外を楽しめるようになってい

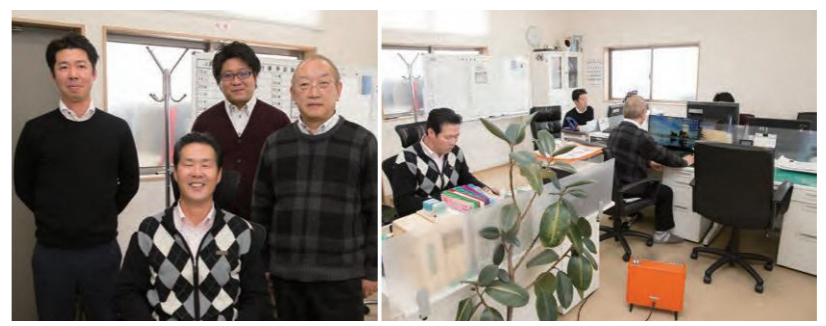


LOGOS BBQスタジアムは、1区画最大8名、全26区画の広大なバーベキューサイト。手ぶらでバーベキュー料理が味わえ、食材を持ち込むこともできる。地元企業の懇親会や地域の集まりなどで利用されることも多いそうだ

冷蔵・冷凍の自社倉庫を将来の目標に
ムラグチ運送は、食品輸送に力を入れ、冷凍、低温、常温の輸送、青果物の輸送を得意とし、専用車両や設備も充実させている。また、社員の成長も著しく、独立した頃の自分がそうだったように、社員の働きぶりがお客様に評価されて、新たな仕事を依頼されることもあるそうだ。

「お客様の多様なニーズにお応えするには、商品を運ぶだけではなく、商品をお預かりして、必要なときに必要な量を配送しなければなりません。そのためには、求職者を積極的に採用し、ドライバーの数も増加。ただ、燃料代が高騰したときは、簡単に運賃を上げてもらえないため、荷物を運んでも赤字になるばかりで、苦勞の連続だったとか。それでも諦めずに仕事を続けた結果、従業員60名、車両台数54台の規模まで成長し、平成29年10月に京都郵便局の横にトラック発着拠点になる城陽営業所を開設した。

ムラグチ運送株式会社
[創業] 平成8年8月
[従業員数] 70名
[資本金] 1,000万円
[事業内容] 一般貨物運送、食品輸送
[本社] 城陽市寺田今橋70-9
[城陽営業所] 城陽市寺田塚本65-3
TEL 0774-57-5411



村口社長(中央)を中心に、営業、業務、ドライバーのサポートを行っている

る。また、園内に26区画のバーベキュースタジアムを開設し、手ぶら・日帰りで楽しめる工夫も充実している。城陽市内の保育園のお泊まり保育を実施し、男女共同参画支援センターのワークショップを開くなど、民間ならではのアイデアで、地域との連携にも取り組んでいる。現在も新たな企画が進行中とのことで、企業を主体にした事業による、新しい城陽のスタイルの誕生に期待が高まっている。

※プラムイン城陽・アイリスイン城陽は鴻ノ巣山運動公園内の宿施設

事業所設置促進補助金

補助率等 投下固定資産額等 × 10% (注) 土地取得費は補助対象外です。

交付限度額	府内常用雇用者数 ^{※1}	限度額 ^{※2}	50~99人の場合	2億円 ^{※3}
	5~9人の場合	0.5億円	100~299人の場合	3億円 ^{※3}
	10~19人の場合	1億円	300~499人の場合	6億円 ^{※3}
	20~49人の場合	1.5億円	500人以上の場合	8億円 ^{※3}

※1. 府内常用雇用者とは、府内に住所を有し、かつ雇用保険の被保険者となっている常用雇用者をいいます。また、府内常用雇用者のうち府内他施設からの異動者を除いた者を新規府内常用雇用者といいます。
 ※2. 大規模投資や、円高時の輸出関連産業については、別途、特別限度額が適用されます。(事業所設置補助金のみ)
 ※3. 50人以上の区分を適用する場合における府内常用雇用者数については、府内他施設からの異動者は含みません。

府内常用雇用促進補助金

補助率等 新規府内常用雇用者数 × 右記単価 (障がい者 50万円/人、正規雇用者 40万円/人、その他 10万円/人)

交付限度額 8億円 (令和4年3月31日までに補助対象事業所としての指定を受けたもの)

補助対象業種	補助対象要件		
	用地等面積	投下固定資産額等 (土地取得費除く)	府内常用雇用者数
製造業等 ※製造業等には製造業類似事業(植物工場等)も含む。	工場 種まき型支援	3,000㎡かつ3億円かつ5人 京都の特性を活かした企業(例)・府内産の農産物を利用した食品製造・府内の大学との研究成果を活用した製品製造など の立地にあつては、1,000㎡	
		本社	(1,000㎡又は1億円) かつ 5人
自然科学研究所		(1,000㎡又は1億円) かつ 5人	
情報関連産業 (コールセンターは除く)		(1,000㎡又は5,000万円) かつ 5人	

(注) 京都府内で事業所を移転・集約する場合は、別途要件があります。
 →既存敷地内での増設の場合は、さらに下記のいずれかの要件を満たす必要があります。
 現在の工場等が ①敷地面積30,000㎡以上 ②従業員200人以上 ③製造品出荷額50億円以上
 京都府内本社企業の場合 ④直近決算売上高100億円以上

対象 「京都産業立地戦略 21 特別対策事業費補助金」の対象となる工場等の新設、増設

融資利率 ※ 特別金利 年1.2% (金融情勢により変更する場合あり)
 府内常用雇用者総数が増加しない場合は1.7% (当初10年間固定、11年目以降は取扱金融機関が定める所定金利)

資金使途 ・工場等の新設、増設に必要な設備資金 (土地、建物、機械、設備等の取得資金)
 ・操業に必要な運転資金

融資限度額 所要資金の90%以内で20億円以内 (うち運転資金1億円以内)

融資期間 ・設備資金20年以内 (据置期間3年以内)
 ・運転資金7年以内 (据置期間1年以内)

※特別金利は補助金要件のほか、府内事業所の府内常用雇用者総数が増加する場合の設備融資に適用されます。○ご利用にあたっては取扱金融機関の審査があり、希望に添えない場合があります。

不動産取得税の軽減 (ものづくり産業等集積促進税制)

不動産取得税を最大1/2軽減します。

対象地域 ものづくり産業等集積促進地域^{※1}

対象業種 製造業・ソフトウェア業・情報処理サービス業

軽減内容 不動産取得税を最大1/2軽減 (不均一課税)^{※2}
 (令和4年3月31日までに土地又は家屋を取得したもの)

対象施設	要件	
	設備取得額(土地を除く)	府内常用雇用者数
工場	2,700万円超	5人以上
研究所・開発拠点	5,000万円超	(対象企業の府内事業所の府内常用雇用者総数が増加すること)

※1 ものづくり産業の集積の促進を図る必要があると認められる地域で、市町村長の申出に基づき、知事が指定した地域をいいます。 ※2 土地及び建物を取得した者が、直接自らのづくりの用に供する場合に対象となり、営業部門や本社部門は軽減対象外です。 ○過去に追徴課税を受けている企業は利用できない場合がありますので、必ずお問い合わせください。

城陽市企業立地促進条例

措置	内容	対象地域及び対象者	対象要件
事業場等設置助成金	○投下固定資産額(土地取得を除く)の100分の10以内の額 ○限度額: 3,000万円 (※情報関連産業、自然科学研究所及び製造業に係る事業場等以外は、1,000万円)	市内の都市計画法上の準工業地域、工業地域又は工業専用地域及び市長が指定する地域内に事業場等を移転、新・増設する企業	○情報関連産業、自然科学研究所の本店及び事業場、製造業に係る本店 →敷地面積500㎡以上取得もしくは賃借、又は投下固定資産額等5,000万円以上かつ地元新規雇用者数1人以上
操業支援助成金	○固定資産税相当額(土地分除く)に次の率を乗じて得た額: (第1年度)100分の75 (第2年度)100分の50 (第3年度)100分の25 ○3年間の交付額の上限: 5,000万円	※令和4年3月31日までに指定申請して助成対象企業の指定を受けた企業の内、指定を受けた日の属する年度から4年度以内に事業場等の操業を開始する企業	○製造業に係る事業場及びその他の産業で、市長が特に認める産業の本店及び事業場 →敷地面積500㎡以上取得もしくは賃借、かつ投下固定資産額等1億円以上又は地元新規雇用者数1人以上
雇用創出助成金	○操業開始日の属する年度の翌年度以降4年間に1年以上継続して新たに雇用した城陽市在住従業員数に期間に定めのない雇用の場合は40万円、障がい者の雇用の場合は50万円、その他の場合は10万円を乗じて得た額 ○4年間の交付合計額の上限: 3,000万円		

※令和2年4月1日より適用。
 ※ただし、京都産業立地戦略 21 特別対策事業費補助との重複は不可。

京都府の優遇制度

城陽市の優遇制度

生産性向上特別措置法に基づく「先端設備等導入計画」の認定申請について

本市に所在している中小企業が2021年7月1日までに、労働生産性を一定程度向上させるため、本市の「導入促進基本計画」に基づき「先端設備等導入計画」を策定し、市に申請を行い、認定を受けることで、税制支援や金融支援などの支援措置を活用することができます。なお、先端設備等については、「先端設備等導入計画」の認定後に取得することが必須となっていますので、ご注意ください。

認定のメリット (令和2年3月現在)

- 生産性を高めるための設備を取得した場合、固定資産税の軽減措置により税制面から支援 (地方税法に基づき課税標準を3年間ゼロ〜1/2間で市町村の定める割合に軽減)
- 計画に基づく事業に必要な資金繰りを支援 (信用保証)
- 認定事業者に対する一部の補助金における優先採択 (審査時の加点)

先端設備等導入計画の主な要件

主な要件	計画期間	労働生産性	先端設備等の種類	計画内容
内容	計画認定から3~5年間	計画期間において、基準年度(※1)比で労働生産性が年平均3%以上向上すること。算定式(営業利益+人件費+減価償却費)/労働投入量(※2) ※1直近の事業年度末 ※2労働者又は労働者一人あたり年間就業時間	・労働生産性の向上に必要な生産、販売活動等の用に直接供される下記設備 【減価償却資産の種類】機械装置、測定工具及び検査工具、器具備品、建物附属設備、ソフトウェア	・導入促進指針及び導入促進基本計画に適合するものであること。 ・先端設備等の導入が円滑かつ確実に実施されると見込めるものであること。 ・認定経営革新等支援機関(商工会議所等)において、事前確認を行った計画であること。

現在、本市では、新名神高速道路の全線開通や国道24号城陽井手木津川バイパスの新規事業化など、各プロジェクトが大きく進行しています。また、「サンフォルテ城陽」や「京都山城白坂テクノパーク」においては、立地企業が徐々に操業を開始され、市内産業全体が活気づいてきています。

このような中で、昨年3月には、6次産業化と農工商連携を進めるための「オール城陽で進める1×2×3推進プラン」を策定し、12月には、農・商・工の全産業を網羅した総合サイトとして、産業支援サイト「JOINT」を立ち上げ、市内の魅力ある企業や農業の紹介等、様々な市内情報の発信にも注力しています。

この「ジョーカー」第5号では、このように大きく飛躍する城陽で活躍いただいている企業の皆様をご紹介しております。掲載企業の代表者様のご協力に感謝するとともに、城陽を盛り上げるため、今後とも本市の産業振興施策へのご協力をよろしくお願いいたします。



城陽市長 奥田敏晴